

研究にただひたすら没頭する そんな境地を目指したいと思っています

薬学部 共通学科 3年
黒木 航太 (くろきこうた)



My Life Situation

部活: 将棋部
趣味: 将棋



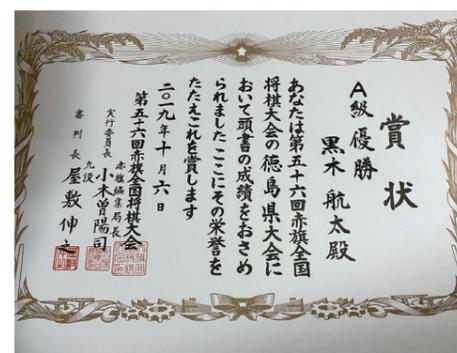
自作したLEDライトを使って反応を進行させ、アルケノンという物質を作る実験。アルケノンは医薬品の原料となる物質を作ることが出来るパーツのようなものとか。

将棋は高校生時代に日本一になったこともあるそうです。特に応援している棋士は、同郷の宮崎県出身 高崎一生七段、都成竜馬七段。両棋士は同じ将棋教室の出身。

もともと人を治療することに興味があったという黒木さん。医師のように直接的に治療を行うのではなく、薬の開発や研究によって治療に携わることができれば…と薬学部を受験しました。しかし入学後、思わぬ落とし穴が。それは物理学です。

高校時代は生物を選択。受験時はそれで問題なかったのですが、入学後、物理学の基礎を知らないまま講義についていくのは大変だったといえます。そうした学生に対するフォローや補習はあるのですが、物理学に対する苦手意識は次第に大きくなり、研究室配属で有機化学系の研究室を選択したことで、やっと物理学から解放され、苦しめられる状況を脱したのだとか。

現在ではO Bの研究を引き継ぎ、従来の方法より穏やかな反応条件でアルケノンという物質を作る研究を行っています。「僕にとって研究は、ただひたすらに没頭できるもの。研究が楽しいとか面白いという人もいますが、そうした感情よりもただ没頭できる、そういう境地を目指したいと思っています。」



1年生が入部してくれたのでチャンスだなと感じています。学業との両立をがんばりたいと思っています。」

研究や課外活動、サークルやアルバイトなど、どのような学生生活を送っているのか、今、がんばっていることやたくさんの人に知って欲しい情報をお届けします。

地域と連携し、徳島の食材にこだわった「徳大ハム」 待望の一般販売、はじまりました!

大学院創成科学研究科 生物資源学専攻 生物生産科学コース 1年
小浦 孝修 (おうらたかみち)



My Life Situation

趣味: ミニブタの世話



ふるさと納税ではインパクトを重視し、返礼品用は1kg(写真真奥)。一般販売は手前の500g。

農場には豚舎はもちろん、食肉製品製造許可を得た加工室があり、飼育からハム加工まで一貫して行うことができるため、安心・安全に配慮した製品作りを行うことが出来ます。

石井町にある徳島大学生物資源産産学部農場。ここの豚舎で育てた豚を使った「徳大ハム」が7月から、学内の生協(常三島SHOP、LUCCKERLA蔵本店)で販売されることになりました。今年4月に商品化され、現在は石井町のふるさと納税の返礼品として活用されています。

「地域を盛り上げたい」と、商品の開発を行うことになった畜産食品研究室のメンバー。小浦さんもその一員ですが、食用豚の研究というよりは、ミニブタなど実験動物としての豚の研究が専門で、ハム作りは初めてだったといいます。「思った色が出なかったり、断面がキレイに仕上がらなかったり、作るのに2週間くらいかかるのですが、味が均一になるよう熟成期間に頻りに手返ししたり、大変でした。」

数ある加工品の中でもハムを選んだのは、ソーセージなどと比べ、賞味期限が長いから。地域貢献を行いつつも、勉学にいそしむ時間を確保できるというメリットに加え、企業の研究者の指導を受けたら、プロ直伝の技を学べることもあって、徳島大学発の商品は「ハムにしよう」と決まったといいます。

徳大ハムを購入したい方はコチラ!

常三島SHOP 常三島メインSHOP
tokushima-shop1@sings.jp

徳大ハムに関する問い合わせは…
BIRC本部(石井キャンパス)
〒779-3233
徳島県名西郡石井町石井字石井2272-2
info.birc@tokushima-u.ac.jp



去年秋に石井町役場を訪問し、小林町長に試食してもらったことがきっかけで、ふるさと納税の返礼品に採用されました。